



神苑の決意

主張

第四八回衆議院議員総選挙を総括する—非自公という民意—

「神苑の決意」 主筆 木川智

本号の内容

【主張】第四八回衆議院議員総選挙を総括する—非自公という民意—(木川智)：1 / 【解説】在沖繩アメリカ海兵隊へり炎上・大破事故について—日米地位協定と日米合意を読み解く—(西山徹)：3 / 【連載】アジア放浪記—歴史を掘り起こし日本を見る タイ・アユタヤ朝編③(仲村之菊)：5 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く⑩斎王の歴史(柳凜)：7 / 活動報告：8 / 花瑛塾日誌：16 / 編集後記：16

1部 1000円
(別途送料160円)

一〇月二二日、第四八回衆議院選挙の投開票が行われ、翌二三日には議席が確定した。自民党・公明党で三一二議席を獲得し、立憲民主党が五二議席、共産党が一三議席となった。自民・公明だけで三分の二議席を獲得し、維新の会一一議席と希望の党五〇議席を含め、憲法改正発議の可能性が現実味を帯びた。

九月二八日の衆議院解散に至るまで、安倍政権には数々の疑惑や問題が存在していた。森友学園問題や加計学園問題、南スーダンPKO日報問題などもあったが、安倍首相はこれらの追及に真摯に答えず、国会を開かず、逃亡を続けた。

また安倍首相はアベノミクスなる自身の経済政策の成功を言い募るが、実質賃金上昇率はいまだマイナス圏にあり、非正規雇用者比率も上昇傾向にある。さらに国や地方の借金の残高もGDP比率で上昇を続けているのが実態である。

さらに安倍政権は、こうした状況下、消費税増税を進め、国民の不満をそらすため、使道を教育の無償化に充てるなどといい始めた。一方で安倍政権は法人税の引き下げを行っているが、トリクルダウンがありえないことは、竹中平蔵氏自身も認めており、日銀・黒田総裁もアベノミクスの第一の矢であった

大胆な金融緩和について、出口戦略を見失っているのが現状である。企業の内部留保は四〇〇兆円にまで積み上がりながら、一般市民の肌感覚として景気回復は感じられない。

こうした悪政・失政・横暴を続ける安倍政権がなぜ多数の議席を獲得したのか、野党には真剣な総括が求められる。

希望の党と民進党・前原代表の大罪

今次選挙では、多くの選挙区で与党系候補の得票数よりも非与党系候補の得票数の合計の方が多かった。例えば東京二区(中央・